

## NPO法人 日本サポートドッグ協会

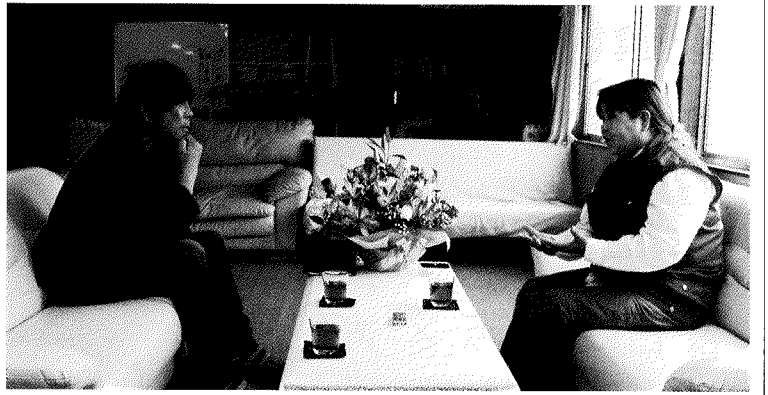
奈良県生駒市高山町8126-101  
TEL/FAX.0743-79-9750  
http://www.supportdog.jp

対談  
理事長

阿部 明子 × 大仁田 厚

インタビュー

[プロレスラー・元参議院議員]



INTERVIEW  
AKIKO ABE × ATSUSHI ONITA

# オーダーメイドで育てる安心の介助犬を通じて、障害者が自然に暮らせる社会に



**大仁田** 平成十五年十月に介助犬を無償貸与するNPO法人を設立された阿部理事長。以前から警察犬の訓練所も運営されていたと伺っています。

**阿部** 私は子供の頃から犬が好きで、将来は犬に携わる仕事に就きたいと思い高校卒業後警察犬の訓練士の勉強をしました。資格取得までは雑用から始まり、その合間を見て訓練・お手入れ・犬舎掃除など休む暇はありませんでしたが、数多くの犬種を訓練することが楽しくて無我夢中でした。その後二十一歳で結婚し独立、資格を取得しました。現在は約四十頭の警察犬及び訓練犬を管理しております。

**大仁田** 新たに介助犬の育成を手掛けられるようになったきっかけを教えてください。  
**阿部** 犬についてもっと知識を深めようと思い、クリフォード・ハーバード氏を頼り三十代前半にイギリスへ遊学致しました。その際に介助犬や聴導犬に出会い、「私が今まで訓練してきた経験をもっと生かせるのでは」と思ったのです。折しも日本でも介助犬の団体がつくられつつある時期で、介助犬についてのプログラム作成依頼を受け、

デモ犬をつくったことがそもそもの始まりとなりました。当初は他団体の手伝いを行っていましたが、より良い犬を育成したいと思いつき自身で事業を立ち上げた次第です。現在三人の常駐スタッフで十四頭の介助犬・聴導犬を手掛けております。

**大仁田** 障害者にとっては自分の体の一部と言っても過言ではない介助犬ですから、育成はとても難しいと拝察します。  
**阿部** ユーザーである障害者の状況や性格を考慮して犬とのマッチングを行ない、更に一年掛けて介助動作などを訓練し、ユーザーが接しやすいよう犬を調整していくオーダーメイドの育成を手掛けています。日本はペットブームですが、介助犬や聴導犬など「補助犬」への理解は充分とは言えません。障害者の実状も多様化していますので、もっと広く多くの方の理解を得て応援して頂けるよう、時間が掛かってもユーザーが安心して付き合える安全な介助犬・聴導犬を育てていきたいと思っています。

**大仁田** 介助犬は障害者の生活を大きく変えてくれるでしょうね。  
**阿部** おっしゃる通りです。私どものユーザー様に大変重い障害をお持ちの方がおられ、お腹に力が入らないため声を出しづらいため、犬をコントロールするため自然に大きな声が出るようになり、表情も性格も明るくなって外出が増え、家族の付き添いなく電車にも乗れるようになりました。また、半身不随で外に出るのが億劫になっていた方が犬を運動させようと思ったことを機に外出が楽しくなり、今ではゆつくりではあります階段の昇り降りもでき

るようになりました。中には毎年一度飛行機に乗って旅行に行くという方もおられます。そんな驚くような変化をお聞きすると本当に嬉しくなりますし、もっと良い犬を育てようという励みにもなります。

**大仁田** 介助犬が障害者の動作を補助するだけでなく、精神的な支えになる―それは本当の意味での「介助」ですね。さて、私は障害者も健常者も偏見なく交流できる社会が理想的だと思うのですが、理事長は健常者が障害者に対してどのように接するのがよいとお考えでしょうか。  
**阿部** 私どものユーザー様は自分の障害については容認していて、自分なりの人生を前向きに歩もうと努力されていますが、以前、重い障害を持つユーザー様が電動車椅子で横断歩道の信号待ちをしていた時、親が子供に「見えてはいけません」と言っていたそうです。恐らく相手は「じっと見つめては失礼」と思ったからなのでしょうが、「自分なりの人生を前向きに考えよう」としているのに、自分を無視されたようで、「一番つらい」とおっしゃいました。皆さん介助犬を自分の体の一部だと思っておられるから、犬のことを聞かれるのは自分

のことを聞かれるのと同じであり、とても嬉しいそうです。我々も犬を介すること話して掛けやすくなりますし、もっと積極的にコミュニケーションをとって差し上げればよいのではないかなと。また、「自分のために人に迷惑をかけているのでは」と心配しているユーザー様もおられ、例えば航空会社で障害者が利用しやすい席を用意して、「お待ちしてい

ました」とひと言掛けられるだけでも「邪魔になつていなかっただんな」と安心できるそうです。ですから、特別な遠慮心を出さず、普段通りに接していくことも一つの励みになると思います。

**大仁田** では、最後に今後の展望を。  
**阿部** これからも障害者の助けとなり、確実な作業ができる良い犬を育てていきたいと思えます。「まず、知って下さい。犬にはできないこと、そして犬にしかできないこと―犬は機械ではなく人間と同じく感情を持った生き物ですから、時には体調が悪い日もあります。社会全体から温かい目で見守ってもらえると嬉しいですね。

**大仁田** 日本の介助犬文化の発展のため、大きなお力になれることを期待します。

## ① INFORMATION

人生を支えてくれる  
頼もしいパートナーを育成

